



日本看護系学会協議会

ニュースレター

第 1 2 号

2009年10月13日 発行

編集発行

日本看護系学会協議会

(事務局) 〒252-8530

神奈川県藤沢市遠藤4411

慶應義塾大学 看護医療学部内

日本看護系学会協議会 事務局

E-mail: jana-jimukyoku@sfc.keio.ac.jp

FAX: 0466-49-6225

～日本看護系学会協議会のさらなる発展へ～



日本看護系学会協議会

会長 太田 喜久子

平成21年6月21日総会で新規の役員が承認され新たなスタートを切りました。会長は継続させていただくことになりましたが、皆様とともに協議会のさらなる発展をめざして力を注いでいきたいと思えます。

日本看護系学会協議会は、第18期の日本学術会議で看護学研究連絡委員会（看護学研連）の発足が認められたことを機に、看護学研連の活動支援を目的のひとつとして平成13年9月に設立されました。その後、協議会の母体づくりや看護学の発展に寄与する種々の活動が行われてきました。日本学術会議の組織改革に伴い平成17年9月に19期の看護学研連は解散し、10月から協議会は新たな目的を持って踏み出しました。

日本看護系学会協議会は、会員である看護系学会間の相互交流と連携をはかり、看護学研究の成果を社会に還元する学会活動を支援するものです。また人々の健康と生活の質の向上のため国・社会に向かって必要な提言を行い、日本学術会議や国内外の学術組織との相互協力を推進していこうとするものです。

平成17年10月、看護界の長年の夢でありました日本学術会議会員に南裕子先生が選出され、さらに10名を超える看護系連携会員が生まれ、協議会としても日本学術会議と強固な連携を図りながら活動を推進していくことができるようになりました。

本協議会新規約に基づき選出された役員による平成18年4月から3年間の期は、協議会活動の芽が出た時期と言えるでしょう。今期平成21年6月からの3年間は、その芽を育てる期です。よい実を結ぶように導く期でもあると思います。具体的な活動には次のようなことがあげられます。

○協議会活動の中核は、その経緯からみても日本学術

会議との連携です。看護学分科会を中心とし、その他関連領域分科会等との学術的活動の連携を推進することです。連携会員を介し、各分科会と各会員学会とが連携し、相互の活動を推進していく必要があります。昨年は日本学術会議看護学分科会のテーマである看護職の役割機能の拡大の必要性と可能性について学術的に討議しあい、シンポジウムを看護学分科会と共催しました。

○看護学研究を推進するために研究助成の確保は重要であり、看護学研究にかかわる科学研究費申請枠拡大の動きを推進していきます。看護学の発展に貢献するものです。

○看護学の理解者を広め、将来を担う人材を育成するための活動として、子どもや一般市民を対象に看護学、看護研究を紹介するナーシングサイエンスカフェを会員学会で開催することを呼びかけています。これは、日本学術会議の活動、日本看護科学学会の活動から学んだものです。

○協議会の存在が認知されるようになり、協議会の組織づくりが他専門分野での協議会形成に刺激を与えています。また協議会としての社会的な活動が求められるようになってきました。看護学の視点、専門的な学問を背景とした意見が求められています。各会員学会に協力いただき評価委員を推薦するなど社会的な責任ある役割を担うことが期待されています。

○会員間の交流をさらに深め、社会への発信の場として、ニュースレターや活用しやすいホームページの充実をさらに図っていきます。

皆様とともに、日本看護系学会協議会の可能性をさらに引き出し、会員、社会のニーズにこたえ、社会に発信する組織体として成長していきたいと思えます。

文部科研費申請拡大戦略

東北大学医学系研究科保健学専攻 吉沢 豊予子

日本看護系学会協議会の使命の一つが看護学の学術的發展を推し進めていくことであることから、科学研究費補助金の獲得拡大に対する思いとこれまでの努力には敬意を表したい。私は平成18年4月～平成21年3月までの3年間日本学術振興会学術システム研究センター医歯薬学調査班の看護学の専門研究員をさせていただいた。ここでの仕事は競争的研究資金の効果を最大限に発揮させるため、厳正で透明性の高い評価システムを確立し、研究経歴のある者が、課題選定から評価、フォローアップまで一貫して責任を持つプログラムオフィサー制度を推し進めることを行ってきた。実際はこの任を務める中で、科研費の仕組みを体験型で学習してきたというのが本音である。また、3年間、一看護学研究者として看護学の発展のために効率よく科研費にアクセスするにはどうすればいいのか、それを看護学研究者の皆さんとどのように共有すべきかを探ってきた。このニュースレターでその機会を与えられたことに感謝し、与えられた課題「文部科研費申請拡大戦略」について述べていくことにする。

科研費の総予算額はここ5年横ばいである。その中で大型研究と若手の研究に手厚く手当てされている。つまり大型研究は1研究の配分額が増額され、若手は採択率が3割を超えるというものである。また各種目に間接研究費がつく

ようになり、年度を越えての繰り越しも可能となり、研究者の裁量の中で研究費が使えるというのも特徴である。さて、この傾向を看護学分野は上手に活用しているのだろうか。平成20年度の看護の採択状況をみると、どの細目をみても基盤(C)研究に応募が集中し、基盤(A)や基盤(B)の応募はその1割から2割程度である。総額の低いそれだけで採択率が2割程の所へ集中していることになる。より多くの予算を獲得したい場合は緻密な計画のもとに大型研究を狙うことが必要となる。また、各専門分野の配分額は応募数と計上予算額から決められる。応募数と1研究の予算額を増やすことが看護学分野への配分額を増やすことにもなる。

最後に看護学分野の科研費拡大戦略とはと問われるならば、以下のことをあげたい。1. 基盤研究S、A、の配分額の高い科研費を狙う。2. 1人が1以上の科研費を応募する。3. そのために学会、大学が科研費がらみの多くの情報を集め、研究者に提供する、4. 科研費申請の資格者を増やす、5. 看護学の細目名を増やすことで、看護学の専門性を上げていくということである。

看護は基盤(C)の応募に見られるように個人の研究が多い。分野を超えた異分野融合、学際的研究の代表を看護が担う、そこに科研費拡大の道が開けると考える。

科学研究補助金の最近の動向と申請枠拡大戦略

日本学術振興会専門研究員

大阪府立大学看護学部

高見沢 恵美子

科学研究費補助金は、研究者の自由な発想に基づく提案型の研究に対する補助金で、平成21年度は、1,970億円の予算が割り当てられています。科学研究費補助金の種目は、1. 若手研究者の自立支援のための若手研究・特別研究員奨励費(学術振興会交付)、2. 国際的に質の高い研究の推進のための特別推進研究・基盤研究(学術振興会交付)、3. 新領域の構成と挑戦的研究の推進をめざす新学術領域研究(文部科学省交付)・挑戦的萌芽研究(学術振興会交付)の、大きく3つに分けられます。

学術振興会が審査を担当している科学研究費補助金の種目は、二段審査制をとっていますが、1. 若手研究および2. 基盤研究と3. 挑戦的萌芽研究とは明確に評定要素が異なります。1. 若手研究および2. 基盤研究の評定要素は、①学術的重要性・妥当性、②研究計画・方法の妥当性、③研究の独創性及び革新性、④研究の波及効果及び普遍性、⑤研究遂行能力及び研究環境の適切性、⑥研究計画と進捗評価を受けた研究課題の関連性の6つであり、これらの総合評点により確実に研究成果をあげる可能性の高さが重視さ

れます。これに対して3. 挑戦的萌芽研究は、①挑戦的で高い目標設定を掲げた芽生え期の研究としての妥当性、②研究の波及効果、③研究計画・方法の妥当性の3要素で評価され、リスクが高いかもしれないが斬新なアイデアやチャレンジ性に富むものであることが重視されます。学術振興会が担当している科学研究費補助金の審査員は、科学研究費補助金の研究代表者、学協会から情報提供のあった者を毎年登録しているデータベースから細目毎に選出されます。細目毎の応募件数が増え細目を増やす必要性が検討されるよう、皆様から科学研究費補助金への応募が増加することを心より願っております。

また、平成21年度は経済危機対策として文部科学省等で、教育・研究支援に関する補正予算(http://www.mext.go.jp/a_menu/yosan/h21/index.htm)が組まれております。底力発揮・21世紀型インフラ整備事業では7,097億円、健康長寿・子育て事業では1,159億円等、科学研究費補助金以外にも多額の補正予算が組まれておりますので、ぜひ申請をご検討下さい。

日本看護系学会協議会

平成21年度日本看護系学会協議会総会 議事録

日時：平成21年6月12日(金) 15時00～15時55分

場所：聖路加看護大学（東京都中央区築地3丁目）

2号館 4階講義室

出席：開会時27学会、終了時点では34の全学会が出席した。

記録：池亀俊美（日本循環器看護学会）

資料

- (1) 平成21年度日本看護系学会協議会総会（資料1～11、別紙2ページ）
- (2) ニュースレター10号、11号
- (3) 日本学術振興会の事業概要（総会後分科会にて）
- (4) 文部科研費申請拡大戦略
- (5) 世界看護科学学会第1回学術集会

議事次第

1. 定足数の確認

34学会中、32学会より回答を得、27学会出席があり、協議会規約第8条に基づき正会員の過半数の出席を得ており、本総会の成立が承認された。

2. 会長挨拶（太田喜久子）

平成18年4月からの役員任期が終了する。役員選挙を行い、本日新役員が承認され、新役員体制を迎えることになった。

社会的活動が活発になってきており、他の学問分野からも本学会の組織体制がモデルとして注目を浴びている。各学会のご協力に感謝申し上げたい。

3. 議事録確認者の承認

記録：池亀俊美（日本循環器看護学会）

議事録確認者は以下2名が承認された。

山田雅子（聖路加看護学会）

井上智子（日本クリティカルケア看護学会）

議事録は、役員会で確認された後に、2名の議事録確認者による署名を経てニュースレターにて報告する予定である。

4. 平成20年度事業報告

(1) 庶務報告（田代順子）（資料1）

- ・ 2009年度より参加申し込み学会が1学会増える予定で、本日はオブザーバーとして参加されている。新役員会において入会が承認される予定である。
- ・ 平成20年度は5回の役員会を開催した。
- ・ 新しい活動として、医療安全全国共同行動への参加、日本学術振興会医歯薬学専門調査班専門研究員との情報共有があげられる。
- ・ ニュースレターに最新の役員名簿があるので、変更がある学会は事務局まで連絡をいただきたい。

(2) ニュースレター（手島恵）

電子媒体のみでの運営も検討されたが、他の学術学会・団体への本協議会の広報活動の意味もあり、紙媒体を継続

することになった。

(3) シンポジウム報告（野嶋佐由美）（資料3）

シンポジウムを2回開催した。

資料3の修正：山本愛子を山本あい子に修正。

(4) 広報報告（川口孝泰）（資料4）

シンポジウムの内容をHPに公開している。

第6回以降のシンポジウムは逐語録に起こしており、活用・広報していただきたい。

ブログを公開したが、いたずらメールが多く、今後検討したい。

HPの左側に学術会議のリンクページを入れる予定である（学術会議へのリンク承認を確認後）

(5) 日本学術会議との相互交流（手島恵）（資料5）

Nursing Science Caféについて

- ① Science Caféは学術会議の活動として始まった。
- ② 看護の領域では南裕子氏が理事長である日本看護科学学会でNursing Science Caféが始まった。
- ③ 昨年12月の役員会にて、看護系学会においてNursing Science Caféが拡大するよう、その支援活動を本協議会が取り組むことが提案された。
- ④ 今年2月の日本がん看護学会にて開催され、今夏の日本看護研究学会にて行われる予定である。

(6) 「診療行為に関連した死亡の調査分析モデル事業への協力」（手島恵）（資料6、ニュースレター11号3面）

34学会中、19学会より協力を得、99名の評価員の候補があり、すでにモデル事業に参加している。本事業の法制化が進まないため、22年度以降もモデル事業となることが予測されるため、本協議会も引き続き協力していく予定である。

(7) 科学研究費拡大推進に関する活動（太田喜久子）（資料7）

日本学術振興会医歯薬学専門調査班専門研究員吉沢豊子氏との懇談会を役員会において行った。

本日、分科会にて吉沢氏、高見沢氏より講演をいただき、情報共有、活動をしていきたい。

(8) その他（太田喜久子）

- ・ 第28回医学会総会への協力
- ・ コメディカルセッションへの企画協力を行っている（太田喜久子）。
- ・ 医療安全全国共同行動への参加

5. 平成20年度会計について（資料9）

- ・ 平成20年度会計について報告された（亀岡智美）。
- ・ 平成20年度会計監査結果について報告された（佐藤禮子）。

以上 特に質問などなく、事業報告ならびに会計報告が承認された。

5. 役員選挙結果報告（中木高夫）（資料は総会資料の別紙）
- ・ 別紙資料にもとづき、報告され、新役員が承認された。
 - ・ 31 通の投票、無効票 6 通、有効票 24 通、封筒のみで投票用紙が入っていなかったもの 1 通であった。
 - ・ 無効票は、内封筒（投票用紙を入れた）を入れた外封筒の表面に送付先学会名の記載がないものであった。今後、無効票が出ないように役員選出規定を見直すことを検討していただきたい。

6. 新役員の紹介（平成 21 - 23 年度）

総会前に新旧役員の引継ぎが行われたことが報告された（太田喜久子）。

会長：太田喜久子（継続）

副会長：片田範子、小松浩子

日本学術会議担当：南裕子（継続）

会計：数間恵子、河口てる子

庶務：小松浩子（副会長兼任）

企画：遠藤俊子、野嶋佐由美

広報：田中美恵子

日本学術振興会担当：島内節、片田範子（副会長兼任）

モデル事業担当：手島恵（ナーシング・サイエンス・カフェのコンサルテーション兼任）

監事：川嶋みどり、金川克子

事務局：慶應義塾大学にて設置予定のため、慶應義塾大

学内に指名理事 1 名を新たにおく予定である。

7. 平成 21 年度事業計画について（資料 10）（太田喜久子）
- 資料 10 に基づき報告され、事業計画案は承認された。

ナーシング・サイエンス・カフェについてはコンサルテーションを行うことが確認された。

8. 平成 21 年度予算案（資料 11）（小山真理子）

・ 資料 11 に基づき報告され、予算案は承認された。

・ 予算案作成にあたり、過去 3 年間の会計の動き、新規事業を見込み、作成した。新規予算内容として、事業費のうち「ナーシング・サイエンス・カフェ」「国内外学術組織との相互協力活動費」の 2 点である。「国内外学術組織との相互協力活動費」は昨年度は予備費より支出している。

・ ナーシング・サイエンス・カフェの内訳についてはグッズを作成し、それを開催する学会にて配布する予定である。

7. その他の審議事項
特になし。

閉会

日本看護系学会協議会会員名簿（平成21年9月30日）

会 員 名	会 員 名
・ 高知女子大学看護学会	・ 日本手術看護学会
・ 聖路加看護学会	・ 日本循環器看護学会
・ 千葉看護学会	・ 日本小児看護学会
・ 日本家族看護学会	・ 日本助産学会
・ 日本看護科学学会	・ 日本新生児看護学会
・ 日本看護管理学会	・ 日本腎不全看護学会
・ 日本看護技術学会	・ 日本生殖看護学会
・ 日本看護学教育学会	・ 日本精神保健看護学会
・ 日本看護教育学学会	・ 日本赤十字看護学会
・ 日本看護研究学会	・ 日本地域看護学会
・ 日本看護診断学会	・ 日本糖尿病教育・看護学会
・ 日本看護福祉学会	・ 日本難病看護学会
・ 日本看護歴史学会	・ 日本母性看護学会
・ 日本がん看護学会	・ 日本慢性看護学会
・ 日本救急看護学会	・ 日本ルーラルナーシング学会
・ 日本クリティカルケア看護学会	・ 日本老年看護学会
・ 日本災害看護学会	・ 日本看護医療学会
・ 日本在宅ケア学会	・ 日本看護倫理学会

【役員】

会 長	太 田 喜久子
副会長（学術振興会）	片 田 範 子
副会長（庶 務）	小 松 浩 子
理 事（企 画）	遠 藤 俊 子
理 事（会 計）	数 間 恵 子
理 事（会 計）	河 口 てる子
理 事（学術振興会）	島 内 節
理 事（広 報）	田 中 美恵子
理 事（モデル事業）	手 島 恵
理 事（企 画）	野 嶋 佐由美
理 事（庶 務）	宮 脇 美保子
理 事（学術会議）	南 裕 子
監 事	川 嶋 みどり
監 事	金 川 克 子

－編集後記－

■ 6月の総会により、新役員体制でのスタートとなりました。■ 第11回シンポジウムのご案内も同封させていただきました。周囲へのご案内ならびにご参加のほどよろしくお願いいたします。■ 広報では、会員サービス向上の一環として、JANA ホームページに「会員情報の広場」のサイトを構築いたします。会員学会での学術集会の情報等、HPでの宣伝をご希望の会員は、JANA事務局 jana-jimukyoku@sfc.keio.ac.jp まで、PDF ファイル等をメール添付にてお送りください。追ってHP掲載させていただきます。
(広報担当理事 田中 美恵子)